

第9回「車座ふるさとトーク」の開催(結果)

外務省国内広報室

9月4日、長野県飯山市の長野県飯山庁舎において、「海外への長野県の魅力発信」というテーマの下「車座ふるさとトーク」を開催し、岡本外務大臣政務官(当時)が出席しました。

- 1 はじめに、岡本外務大臣政務官(当時)から、戦略的なビザ緩和、ジャパン・ハウス、在外公館での日本文化等の紹介、国内において海外に向けて地方の魅力を発信する事業や観光政策の重要性等について説明しました。
- 2 その後、外国人観光客の長野県への誘致や、外国人観光客誘致を通しての地域活性化等に関し、参加者から自らの経験に基づく様々な意見・提言が寄せられ、活発な意見交換が行われました。



- 3 参加者から寄せられた主なご意見は以下のとおりです。
 - ・東京駅から飯山駅までの所要時間は概ね1時間半なので、新幹線が飯山駅で確実に1時間に1本停車してもらえれば、東京に一週間滞在しているような外国人に日帰りでも来もらえる。
 - ・地方ではよくあることだが、新幹線の駅から先の交通手段、いわゆる二次交通が充実しておらず、例えばバスが2時間に1本しかないといった現実がある。地域に魅力的な場所はたくさんあるが、そういう事情から案内することが難しい。地方は過疎化が進んでおり、地方の交通機関に充実化を実施する余裕は無い。交通網の整備は国の財源でやって欲しい。
 - ・旅館のオープンから、毎年、料金を上げているが、それにより稼働率が上がり、売り上げも伸びている。料金を上げると、良い客が来るようになり、毎年来てくれる客も

いる。30年間料金据え置きの旅館もあるが、旅館の経営者は自信を持って値上げしても良いと思う。

- ・観光客が途切れないよう地方から欧・米・豪の新しい客に能動的にアプローチしていく必要があると考えているが、その手段が少ない。日本に滞在する留学生やビジネスマンなどにもアプローチできる機会が増えればよい。
- ・海外へのPRについて、ビジネスや勉強で日本に滞在中の外国人にも接触して、それらの人から発信してもらうことも重要。そのための窓口となるところがあれば有難い。
- ・外国では、SNS発信でインフルエンサーとなる人に一定期間滞在してもらって、その間の行動は制限せずに自由に滞在してもらうところもあると聞く。日本では、本人が望まない場所に連れて行くこともあるが、このような外国の事例も参考にすべき。また、どの人が良いインフルエンサーなのか地方の人には分からないので、そのような情報を共有できる仕組みがあれば有難い。
- ・現在も各国の要人や有名人がプライベートで訪れている。そのような方々にも正しい情報を提供したいので各国の大使館等に窓口があれば有難い。
- ・「北信州」、「信越自然郷」というブランド作りを強化したい。東京から海外旅行者を集客するという意見があったが、日本行きのチケットを購入する時点での宣伝も重要と思う。
- ・信州のグリーンシーズンも魅力的であり、それをどう発信していくか、また、誰に発信してもらうのが効果的かということを考えている。
- ・冬のオンシーズンは集客は良いが、その反面、受入れ側に人手不足の問題が生じている。日本の人口が減っている中で、海外から客を呼び込むためには、英語が話せる人材の観点も含めて外国人従業員を雇用する必要があるが、優秀な人材であってもビザの取得にハードルが高いなど外国人の雇用に至るまでの手続きが大変。
- ・観光税は、豊かな観光地を作るために必要な財源と思う。地方を活性化し、きちんとしたサービスを提供できる観光基盤を作るため、宿泊税や観光税などを導入することで国が財源を確保してもらいたい。



[参考]

「車座ふるさとトーク」は、各省庁の大臣、副大臣または大臣政務官が国内の様々な地域に直接赴き、少人数での対話を行うことによって、現場の方々の声を政府の政策に活かすとともに重要政策について説明する取組。外務省は過去に山梨県、宮城県、奈良県、鳥取県、大分県、三重県、徳島県、岡山県で地方産品の海外展開や観光等をテーマに開催。